

H25. 4. 13

旅行療法



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。54歳。

徘徊や暴言、暴力など、認知症の人の「いわゆる周辺症状」に困っている家族は多いでしょう。「いわゆる周辺症状」と書いたのは他に言葉がないからです。

認知症は記憶障害などの「中核症状」と「周辺症状」に分けて考えることに一応なっています。認知症の人の在宅療養が難しいといわれるのは、周辺症状に周囲が悩まされ、対処法がなかなか分から

温泉と食事でプチゼいたく

80代の認知症の男性Aさんの在宅主治医を依頼されました。最初は暴言、暴力が大変で、大小便も部屋の中でする始末。大声を出し、触ることもさせません。訪問診療にう

かかっても聴診器を当てるとも採血もできません。もちろん周辺症状を鎮める薬を飲ませることもできませんでした。

しかし、3年の歳月を経て、Aさんの周辺症状は劇的に改善し、現在、別人のように穏やかに自宅で夫婦で暮らしています。

一緒に電車に乗り、温泉に入り、おいしい食事を楽しまます。どんなに機嫌が悪い人でも、温かい湯とごちそうがあれば機嫌が直ります。温泉旅行は効果がありました。体を温めると種々の病気がよくなる話はあまりにも有名。

「HSP」というタンパクが誘導され、免疫能も上がりま

温泉は、がんや難病など種々の病気に効果があり、温泉は、荷物を持って奥さんの手

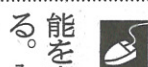
Dr.

和

の町医者日記

認知症ケアシリーズ④

かかっても聴診器を当てるとも採血もできません。もちろん周辺症状を鎮める薬を飲ませることもできませんでした。



HSP ヒートショックプロテインの略。体を温めると体内で誘導されるタンパク質。免疫能を高めたり、障害された細胞を修復する作用がある。入浴健康法は、HSPの増加で説明されている。